

# 店内換気の省電力化でCO2削減に貢献 世界的ECファンメーカーの製品を採用

ホールの空気環境改善を手掛けるJ.G.コーポレーションの『MCFシリーズ』は、世界的なECファンメーカーのebmpapst社の製品を採用。優れた省エネ性能で店内の換気を制御しながら消費電力を削減する他に類のない製品だ。

### E

ECファンとは、ACCの商用電源をファン内部の電子基板でDCに電子整流し、DCブラシレスモータを駆動する電子制御ファンのこと。モータと羽根に加えて、回転数制御回路やノイズ抑制フィルタ、センサ用電源

などがオールインワンで組み込まれているファンを指す。省電力・省スペースで設置できる点が大きな特徴だ。これと相対するのが、従来型のACCファンで、周波数インバータ、センサ、フィルタなどの構成要素がそれぞれ単

独で存在し、ファン以外の費用、及び現場での接続工事が必要になる。

要になる。

J.G.コーポレーションの『MCFシリーズ』で採用しているのは、ドイツに本社があり、世界市場をけん引するECファン開発・製造メーカーのebmpapst（イービーエム・

パプスト、以下ebm）社のECファン。日本では膨大な電力を消費するデータセンター冷却市場の空調機用ファンでは、9割のシェアを持つほど優れた性能を備えている。快適な室内環境を実現しながら建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを指す

ZEBに資するファンとして、既存のACCファンとの置き換えが世界的に進んでいる製品だ。

ebm社のECファンは高効率のモータと、アルミ（又は樹脂）による羽根の成形、そしてインバータ機能を内蔵した制御基板のエレクトロニクス技術の3つを備えた。その結果、従来のACCファンに比べて78%の消費電力削減を実測した例もある。騒音レベルも最大24dB低減するなど、店内環境を大きく改善する性能を持つ。

『MCFシリーズ』は、令和5年度補正予算で「省エネルギー投資促進支援事業」において、ebm社のECファンが搭載された製品で初めて補助金対象設備に採択された。

ebmpapst Japanのエールワン・マオ社長は「私どものファンは、機器メーカーさんにご採用いただくかといと市場に製品を出すことができませ

ん。J.G.コーポレーションさんが、私どものファンを活用したMCFファンを開発し、販売していただけるのは願ってもないこと。ぜひ日本のみなさんに使っていただきたい」と話す。

J.G.コーポレーションの渡邊秀

太社長は「ファンの性能は折り紙付き。『MCFシリーズ』は静かで、効率よく換気ができて、省スペースで省電力化が図れますので、パチンコホールに最適なファンです」とそのメリットを強調する。

コロナ禍で店内の優れた換気性能を実証したパチンコホール。多くの店舗には換気用ファンが使われている。節電できる施策はすでにやり尽くしたという声も聞かれるが、自店で使われている換気ファンの性能を把握している店舗はそう多くないはずだ。

既存ファンからMCFへ更新すると、省エネの補助金対象になるので今がチャンス。省電力で残された施策として『MCFシリーズ』を導入してみる価値はありそうだ。

▲



J.G.コーポレーションの渡邊秀太社長（左）とebmpapst Japanのエールワン・マオ社長。中央はebm社のECファン



J.G.コーポレーションの「MCファン」